

奥出雲町横田地域における公共公益施設の整備状況に関する分析

公共公益施設
中山間地域

公共施設の維持

- 正会員 ○細田 智久*
- 会員外 ○野津 遼太郎**
- 正会員 三島 幸子***
- 正会員 森 則之****
- 正会員 中園 真人*****
- 正会員 牛島 朗*****

1. はじめに

1.1 研究の背景・目的

本研究では、島根県奥出雲町横田地域を対象とし、昭和の自治体合併以前の旧自治体4集落における生活圏形成や公共公益施設が、現在どのように整備されているかを明らかにする事を目的とする。日本では少子高齢化が進行しており、山陰地方においても深刻化している。特に中山間町村である奥出雲町では都市部への人口流出、働き手の高齢化を受け、特に平成期の町村合併以降、公共公益施設の存続に大きな影響を及ぼしている。そこで、本論では横田地域における公共公益施設の形成年代・規模・立地を通して、旧自治体4集落の合併後の施設整備状況を明確にする。

1.2 研究方法

(1) 横田地域の公共公益施設の配置と各集落中心地区のマップ作成

対象4集落の公共公益施設を把握し、現在の分布状況等を各集落中心地区のマップへプロットする。

(2) 実態調査

奥出雲町横田地域の人口動態、産業構造の変化、公共施設の整備状況の調査を行う。

2. 奥出雲町仁多・横田地域の概要 (図1)

2.1 産業

奥出雲町は島根県東部、中国地方の中山間地域に位置し、たたら製鉄業を主幹産業として発展してきた。たたら製鉄の衰退以降も、鉄穴流しによって形成された土地を活用し、棚田での米の生産や、有力なたたら経営者であった鉄師等により地域ブランドの発展、燃料としての山林資源の利用など、かつて栄えたたたら製鉄業が現在の地域産業に影響をもたらしている。

2.2 奥出雲町における合併の変遷

昭和期である1955年に三成・三沢・布勢・阿井・亀嵩村が合併により仁多町となった。また、1957年に横田町、八川・馬木・鳥上村が合併により斐上町となり、1958年に横田町となった。平成期の2005年に仁多町・横田町が合併により奥出雲町となっている。

2.3 人口動態 (表2)

奥出雲町は1920年から1947年までは人口が増加傾向にあったが、1955年以降は減少傾向にある。2017年では横田地域の総人口は6,116人で、中心地区の旧横田が2,644人と約44%を占め、他3集落は千人規模である。



図1 奥出雲町地図 (調査対象地域)

表1 4集落別の施設形成年代表

年代	横田	鳥上	八川	馬木	
1960	1964		八川小学校 校舎		
	1975		八川駅舎 駅舎 八川町民運動場 社会体育施設		
	1976			馬木定住住宅	
	1977	横田コミュニティセンター			
1970	1979	大市西団地 大市西定住住宅			
	1980			馬木定住住宅	
	1981	土橋集会所	八川小学校 屋内運動場		
	1986		横田郷土資料館土蔵 母屋 八川分団第1・2部格納庫 八川分団第5部格納庫		
	1987		横田郷土資料館 文化伝習室 文化伝習室 技術伝習室	横田畜産センター	
1980	1989	横田増肥センター 雄肥増進学習 横田町定住促進センター			
	1990	横田小学校 屋内運動場 雲州そろばん伝統産業会館 わくわくキッズよこた	鳥上定住住宅		
	1991	役場横田庁舎 六坂団地	奥出雲町文化創作館		
	1992	農畜産物加工販売等施設	鳥上分団第3部格納庫	八川分団第3部格納庫	
	1993	中河原団地			
	1994	横田分団第5部格納庫	横田開発農業実証農場	八川定住住宅 農林漁業体験実習館	
	1995	奥出雲町工業実習館 横田分団第4部格納庫 中河原団地	鳥上幼児園		馬木幼児園 馬木小学校 校舎 鳥上分団第4部格納庫
	1996	雲州そろばん伝統産業会館 そろばん回廊横田有機センター	鳥上分団第2部格納庫		馬木小学校 渡廊下、便所 横田築殖育成センター
	1997	横田コミュニティセンター 中河原団地 横田畜産センター	鳥上小学校 屋内運動場		馬木分団第1・2部格納庫
	1998	中河原団地 横田分団第1部格納庫 横田新技術活用種苗等供給施設	鳥上小学校 特別教室		
1999	横田分団第3部格納庫 横田新規就農者技術習得施設				
2000	2000	横田ふれあいプラザ 横田分団第7・8部格納庫		八川分団第4部格納庫	馬木分団第3部格納庫
	2002	大市西集会所			
	2003	横田分団第6部格納庫			
	2004		たたら体験学習工房・水車小屋 古代たたら体験学習工房	八川小学校 管理・特別教室棟	馬木幼児園
	2006		鳥上コミュニティセンター	八川コミュニティセンター	馬木コミュニティセンター
	2007		鳥上診療所		
	2008				大馬木定住住宅
2010	2009				馬木幼児園
	2010				馬木診療所 馬木小学校 屋内運動場
	2011	中河原団地10号棟	大炭焼き体験工房	八川幼児園 園舎	
	2012	奥出雲町高齢者生活ホーム 帯音舎	鳥上分団第1部格納庫		
	2014	中河原第一定住住宅 横田地区防災備蓄倉庫			馬木分団第4部格納庫
	2015	土橋住宅			
	2016	横田幼児園		八川小学校 (屋内運動場)	

3.3 小学校の整備状況 (表 4)

横田地域の4集落では、現在でもそれぞれの集落中心に小学校が存続している。

- ①児童数：最も児童が多いのは横田小の119人・8学級で、次いで馬木小の59人・7学級、八川小の44人・5学級、鳥上小の36人・4学級の順になっており、八川小と鳥上小は複式学級で運営されていると推測される。
- ②児童数当りの面積：児童1人当りの面積が最も大きいのは鳥上小の66.59㎡/人で、横田小の25.09㎡/人が最も小さい。4小学校ともに2,000㎡以上のRC造校舎を持つことから、横田小以外の3校では空き教室などの余裕スペースが多くあると推測される。

4. 各集落の特性と施設整備状況の分析

図2～5では、横田地域の横田、鳥上、八川、馬木の4集落の集落中心エリアを図示し、ゼンリン住宅地図上で確認できる施設をプロットした。

4.1 共通施設の配置状況

施設種別を分類し、各集落に共通する施設を確認すると、小学校、幼稚園、公民館、JA、郵便局、駐在所、診療所の7つであった。

共通する施設に関して、小学校を中心としてその配置を確認すると、鳥上は半径250m圏内に立地、横田・八川・馬木は半径500m圏内に立地している。共通施設の細かな配置を見ると、横田は集約、鳥上と八川は隣接、馬木は分散していることが確認できる。

以降では、集落毎に中心エリアの施設配置を分析する。

4.2 横田 (図 2)

横田地域は川沿いに中山間地域としては比較的開けた土地柄であり、奥出雲町内で唯一用途地域が指定されている。小学校を中心とする半径500mの中心部に役場、銀行、病院、駅などの重要な施設が立地している。中心地から500mに幼稚園、1.1kmに中学校・専門学校、1.6kmに高校が設置されている。他の3集落と異なり幼稚園と小学校が隣接せず離れた場所につくられているのは土地が開けていることにより、離れていても利便性が悪くならないためだと考えられる。社会教育施設、高齢者生活ホーム、農業関係の建物、住宅団地などが中心地から少し離れた場所に点在している。また、近隣商業地域の部分には量販店が見られる。周辺地域から通学や公共施設利用、買い物など様々な目的で人が訪れるため、多くの機能が集約化された地域である。

4.3 鳥上 (図 3)

横田集落の東側山間部に位置する。集落西側の小学校を中心とする半径250mに幼稚園・コミュニティセンターと併設の診療所・郵便局・駐在所といった共通施設がコンパクトに集約しており、必要最低限の公共公益施設しかないことが特徴である。こうした小学校を中心としたエリアからは離れた場所に奥出雲町文化創作館、たたら角炉伝承館、大炭焼き体験工房といった社会教育施設が多く設置されている。

4.4 八川 (図 4)

横田集落の南側山間部に位置する。小学校を中心とする半径500mに幼稚園・コミュニティセンター・郵便局・

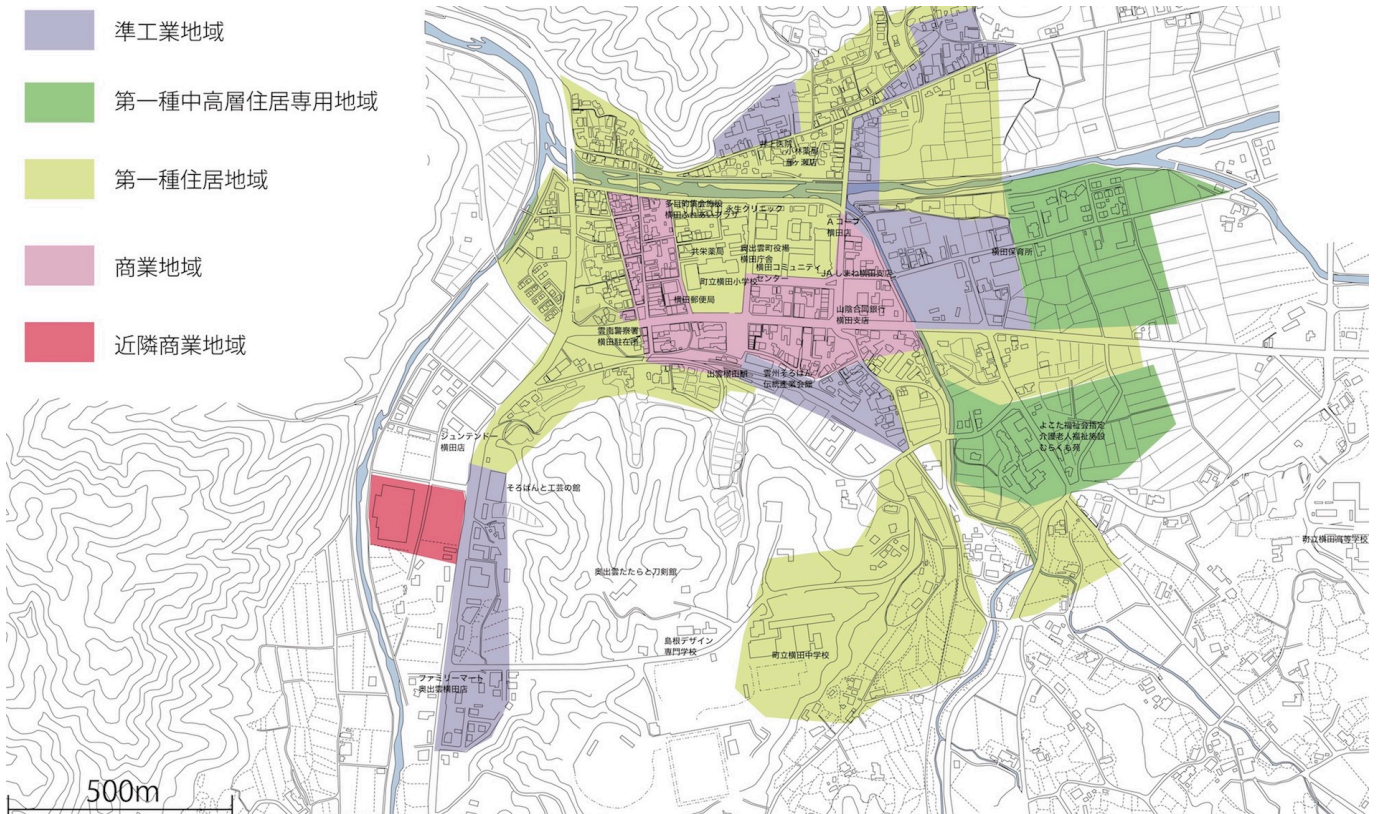


図2 横田集落の中心エリアの状況

JA・駐在所といった施設が集まっている。鳥上・馬木に比べて、住宅地が集約しており、近隣に畜産センターや運動公園、横田郷土資料館が設置されている。

4.5 馬木 (図5)

横田地域から南側の最も中国山地沿いにある。小学校を中心とする半径 500m に幼稚園・郵便局・駐在所・コミュニティセンター・ショップなどの多くの施設がある。比較的住宅が分散しており、小集落毎に5つの公民館が配置されていることが特徴である。

5. まとめ

本研究では島根県奥出雲町横田地域を対象に公共公益施設の整備状況を明らかにした。得られた知見は以下の通りである。

- ①旧横田町の中心であった横田は、現在でも奥出雲町横田庁舎や中学校が立地するため、行政・教育・住宅などの施設整備が進んでいる。
- ②横田以外の3集落にも小学校・幼稚園やコミュニティセンターが設置・維持されており、集落維持に必要な施設が存続している。特に平成の合併後の2006年にコミュニティセンターが新たに整備された。
- ③各集落には小学校、幼稚園、コミュニティセンターの他にも、JA、郵便局、駐在所、診療所の共通する7つの施設が見られ、これらは集落と日常生活の維持に重要な施設であると言える。
- ④小学校は4校維持されているが、横田小以外の3校では児童数に対する延べ床面積が大きく、余剰スペースが多い状況であると思われる。
- ⑤鳥上では小学校を中心とした250m範囲に、八川・馬木でも同500m範囲の徒歩エリアに施設がコンパクトに設置されていることも分かった。

6. 今後の課題

奥出雲町横田地域は各集落機能の維持が図られているが、近隣では中心部への機能集約も進んでおり、こうした自治体との比較検討を進めたい。

参考文献

- 1) 渡部巴菜・細田智久・中園真人・牛島朗・三島幸子、日南町におけるコンパクト・ヴィレッジ構想に関する現状分析、一鳥取県日野郡日南町の事例研究 その1-、日本建築学会中国支部研究報告集第41巻、No. 523、pp. 577-580、2018.3
- 2) ゼンリン住宅地図(奥出雲町)2017年出版
- 3) 固定資産台帳一覧(奥出雲町)2018年9~10月
- 4) 仁多町誌 平成8年3月29日発行

謝辞

本研究の調査に際し多大な御協力を頂いた奥出雲町役場の方々に心から謝意を表します。

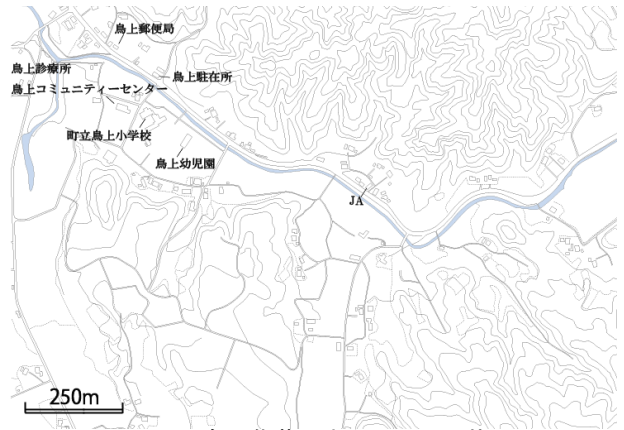


図3 鳥上集落の中心エリアの状況



図4 八川集落の中心エリアの状況

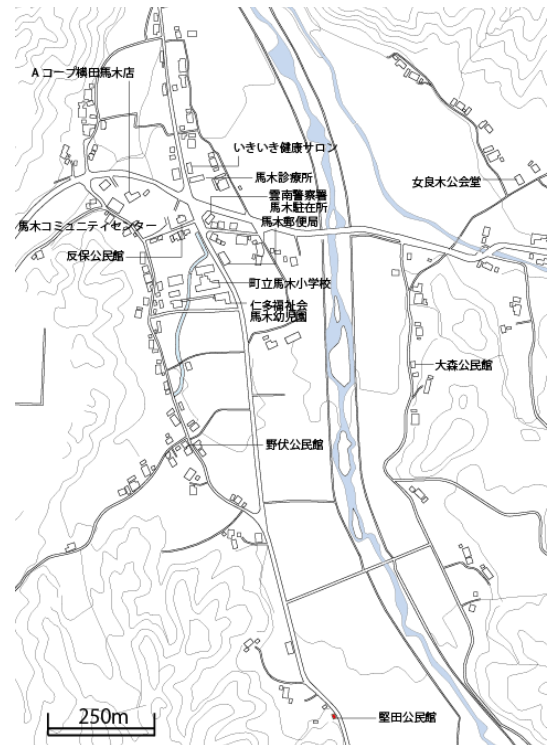


図5 馬木集落の中心エリアの状況

* 島根大学学術研究院環境システム科学系 建築デザイン学コース・教授・博士(工学)	* Professor, Architectural Design Course, Institute of Environmental Systems Science, Academic Assembly, Shimane University, Dr. Eng.
** 島根大学総理工学部建築・生産設計工学科・学生	** Student, Dept. of Architecture and Production Design Engineering, Interdisciplinary Faculty of Science and Eng., Shimane University
*** 島根大学学術研究院環境システム科学系 建築デザイン学コース・助教・博士(工学)	*** Assist. Prof., Architectural Design Course, Institute of Environmental Systems Science, Academic Assembly, Shimane University, Dr. Eng.
**** 島根大学自然科学研究科博士前期課程 環境システム科学専攻建築デザイン学コース・大学院生	**** Graduate Student, Architectural Design Course, Graduate School of Natural Science and Technology, Shimane University
***** 山口大学大学院創成科学研究科・教授・工博	***** Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.
***** 山口大学大学院創成科学研究科・助教・博士(工学)	***** Assist. Prof., Graduate School of Sciences and Tec. for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.